

今後の円卓会議で検討するテーマについて

バルディーズ研究会

角田季美枝

1 あと2年、円卓会議の続行を

・市民・企業・行政が一堂に会して検討する場は他になく、非常に貴重である。3年ぐらいのスパンで三者が集まる場の機能やあり方を検討してはどうか。

2 現状認識の体系化と優先順位づけの原則の検討

・今年度の残りの会合と来年では、「アジェンダ 21」の19章の内容にそって、トータルに日本がかかえる化学物質問題を把握し、解決すべき順位づけの原則を考える。

・地域的心声をインターネットにこだわらず積極的に集め、日本がかかえる化学物質問題リスト、解決提案リストを充実させる。

・現在の構成メンバーでは化学物質の環境リスクという幅広い問題を議論するのに不足がある。必要な専門分野のメンバーを増やす、必要な場合はレクチャーを受ける、地域で的心声を効率的に集めるなど、なんらかのフォローが必要と考える。

3 フューチャーサーチ会議の実施

・さ来年はまとめということで、メンバープラスアルファによるフューチャーサーチ会議（2泊3日の参加型ワークショップ手法。8つのセクター各8人が参加。過去をふりかえり現状認識を共有し、未来のビジョンを考えてから、今後の行動計画を検討するという手法）を試みて、それぞれのセクターの化学物質リスク削減行動計画を考え、さらに日本全体の化学物質リスク削減の長期・中期・短期計画を検討する。

・いままでの検討をふまえて円卓会議として、三者が集まる場がどうあるべきかの提案をまとめる。

・円卓会議の次の段階としては（名称は円卓会議のままでもかまわない）、英国のステイクホルダー・フォーラムなどのように、化学物質のリスク削減について利害を超えて話し合え、三者合意が必要な話題については随時検討して何かをうみだすような場ができることを期待する。

以上